



OUIK Newsletter

2015年 年頭に寄せて

国連大学サステナビリティ高等研究所
いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット
(UNU-IAS OUIK)
所長 渡辺綱男

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年 2014 年はいしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット (OUIK) にとって、次の新しいステージを模索するための1年であったように思います。私自身、昨年1月に OUIK 所長を拝命し春には新しいスタッフも3名加わりました。これまで OUIK が石川県、金沢市の皆さまとともに積み重ねてきた生物多様性保全や自然共生社会づくりの実績の上に着実に成果を付加しつつ、さらに飛躍の方向性を探った1年でした。2014年10月に韓国で開催された生物多様性条約第12回締約国会議では、公式サイドイベントで能登の里山里海保全の取り組みとその成果を発信することに加え、石川、金沢の生物文化多様性の統合的な保全・活用に向けて国内外の関係者と今後を見据えた協議を行うことが出来ました。



2015年はいこれらの努力が具体的な形に結実する年にしたいと思っています。1月29日には、石川の各地で国際的な認証を受けたさまざまな地域の相互連携を推進するにはどのような課題があるのか皆さまと議論するシンポジウムを開催いたします。3月には能登の里海にフォーカスした公開セミナーを開催いたします。そして5月には、金沢市がユネスコ創造都市ネットワーク会議を招致主催するのを記念し、都市の文化と里山里海をつながり、生物多様性と文化多様性をつなぐに注目して国際シンポジウムを開催いたします。そして2015年度、金沢市では生物多様性地域戦略の策定が検討されているところです。OUIK がこれまで金沢市と行ってきた都市と生物多様性プロジェクトの研究成果が反映される機会となるよう期待しています。

今年は北陸新幹線が開通し石川、金沢にとって大きな飛躍と変化の年になることと思います。OUIK もこれまでの活動をさらに飛躍させ、また皆さまとの新しい協働や対話の形を創出できるような変化を起こす年にしたいと考えます。今年も1年どうぞよろしくお願いいたします。

OUIK の活動目的

1. 持続可能な社会づくりを目指し、地域のパートナーと協働しつつ、国際社会が取り組む研究活動に対し地域レベルの視点から貢献していく。
2. 国際動向に関する最新情報を共有しつつ、普及啓発・人材育成活動を通じ、地域の多様な関係者との対話を進めネットワークを構築していく。

生物多様性条約第 12 回締約国会議（CBD・COP12）報告特集号

2年に一度開催されている生物多様性条約締約国会議（CBD・COP）は、2010年に第10回会議（COP10）が名古屋で開催され、愛知目標が策定されたことをご存知の方も多いのではないのでしょうか。ハイデラバード（インド）での第11回会議（COP11）を経て、COP12は2014年10月6日から17日までの間、韓国の平昌（ピョンチャン）で開催されました。今号ではOUIKのCOP12での活動を報告いたします。

公式サイドイベントにて世界農業遺産、能登の里山里海を発信

OUIKは、10月7日に世界農業遺産（GIAHS）に関する公式サイドイベント「伝統的農業システムと生物多様性」を韓国国立農業科学院と共催いたしました。安玉善（アン・オクスン）韓国農村振興庁国立農業科学院農業環境資源課長より開会挨拶の後、武内和彦国連大学上級副学長が農林水産業が内包する生物多様性保全の重要性に触れ伝統的農業システムがそこに果たす役割を説明しました。FAOのジェシカ・サンダース氏からはGIAHSの取り組みが生物多



サイドイベント主催の韓国、日本メンバー

様性条約の枠組みの中で果たす意義、金尙範（キム・サンブン）韓国農村振興庁国立農業科学院農業環境部研究官からは韓国における伝統的農業システムと環境保全の取り組みの全体像を紹介いただきました。実際のGIAHSサイトの例として、日本からは堀畑正純石川県農林水産部長が石川県の「能登の里山里海」の事例を、康承鎮（カン・スンジン）韓国済州特別自治道済州発展研究院研究官が済州島の「石垣農業システム」の事例を発表しました。

OUIKのイヴォーン・ユ－研究員がモデレーターを務めた質疑応答セッションでは、GIAHSの取り組みが、生物多様性保全だけでなく農村地区の持続可能な生計や景観保持にも貢献するのではないかと、気候変動の影響をどのように受けるのか等の意見、質問が会場から出ました。会期中に平昌を襲った寒波によりテントパビリオン内のサイドイベント会場は寒いところが多い中、会場がほぼ満員となる120人の参加者との議論で会場は熱気に包まれました。

生物多様性条約事務局長をはじめとする関係者とのネットワーキング



ディアス生物多様性条約事務局長（左）にイベント企画を説明

CBD・COPのような大規模な国際会議の場では、自らの情報発信だけでなく他の参加者とのネットワーキングもとても重要なミッションです。OUIKではこれまで都市と生物多様性プロジェクトの研究会を通して、文化多様性と生物多様性の相互関係を生物文化多様性圏という概念を用い議論してきました。その成果発表として今年5月に石川金沢の生物文化多様性圏に関する国際シンポジウムを開催するにあたり、COP12では生物多様

生物多様性条約第 12 回締約国会議（CBD・COP12）報告特集号

性条約事務局（CBD 事務局）とユネスコが共同で実施する「生物多様性と文化多様性のリンク」プログラムの担当者と直接面会し、イベントへの協力をお願いするという目的がありました。

条約事務局の職員は会期中、担当会合の合意文書をまとめあげるため多忙を極めます。そうした中 OUIK のネットワークを総動員して、上記プログラムの担当者の方々と会合の間をぬい、面談することが出来ました。CBD 事務局のスコット氏からはシンポジウムでの協力を留まらず、COP13 に向けて協働体制を作ろうという前向きな提案を頂くことができました。また会場内ではディアス事務局長とお話する機会にも恵まれ、上記シンポジウムの企画を直接アピールすることが出来ました。



面談後の記念撮影：左より飯田研究員（OUIK）、永井事務局長（OUIK）、ヴィヴィアナ氏（CBD 事務局）、ジョン・スコット氏（CBD 事務局）、渡辺所長（OUIK）

COP12 報告会の開催

COP12 全体の議論は、国際社会がどれだけ COP10 の愛知目標を達成したか中間評価をまとめるというものでした。OUIK では総合的な論点と其中で石川県の取り組みがどのように評価されるのかを 12 月 11 日に公開セミナーという形で皆様に報告する機会を設けました。日本政府の交渉実務を担当された環境省生物多様性地球戦略企画室、中山室長補佐から愛知目標の紹介とその達成度評価については一定の成果はあるものの国際社会のさらなる努力が必要なこと、石川県からはサイドイベントでの発表とブース出展につき清水里山振興室次長より報告いただきました。永田明 UNU-IAS シニアプログラムコーディネーターからはサイドイベントや韓国の世界農業遺産について報告をし、飯田研究員より COP12 と連動して開催された Urban Biodiversity and Design (URBIO) 国際会議での議論の報告を行いました。また草の根の取り組みの紹介として、国連生物多様性の 10 年日本委員会が主催するアクション大賞¹を受賞した「まるやま組」を主催する萩のさんをお招きし、地元輪島の方々と金沢大学の研究者との協働で行う生き物調査、農耕儀礼「あえのこと」を現代風にアレンジし開催している取り組みについて発表いただきました。このアクション大賞には、河北潟湖沼研究所の生きもの元気米も「えらぼう部門優秀賞」を受賞されており、応募総数 124 のうち石川県から大賞を含む 2 つの受賞があることは全国的にみても高く評価されます。会場との質疑応答を経て、最後に金沢大学中村浩二特任教授による総括コメントでは各地域の取り組みを有機的に連携発展させるために OUIK のさらなる活躍を期待するというエールを頂きました。



会場からの質問に答える登壇者：（左から）萩の氏（まるやま組）、飯田研究員（OUIK）、永田明氏（UNU-IAS）、清水氏（石川県）、中山氏（環境省）

次の CBD・COP13 は 2016 年にメキシコでの開催が予定されています。石川県、金沢市の取り組みを世界に向けて発信するため、引き続き皆様とともに自然と共生する社会を目指し活動を続けてゆきたいと考えます。

¹生物多様性アクション大賞 2014 <http://5actions.jp/award/result.html>

穴水町での世界農業遺産セミナーにてイヴォーン・ユ一研究員が講演 (2014.10.18)

世界農業遺産活用実行委員会主催による世界農業遺産セミナーにて、OUIK イヴォーン・ユ一研究員が世界農業遺産のコンセプトや意義についてお話ししました。「あなみず恵みの里山里海資源の有効活用」と銘打ったパネルディスカッションでは地元穴水や羽咋から参加されたパネリストの方々と議論させていただきました。複数のパネリストの方々が共通に挙げていらした穴水の資源は、1. 穴水の人には本当にみな優しい、2. 穴水は海と山が近く里山と里海の循環が見えやすい、という本質的なご指摘でした。OUIK ではこれからも積極的に地域の方々と議論する場に参加したいと考えています。



会場との質疑応答の様子

ブータン世界農業遺産研修員へ講義 (2014.10.29-11.1)

石川県の国際協力事業の一環でブータン王国より政府職員の Dorji Rinzin 氏を招き、世界農業遺産を通じた環境保全と地域活性化の研修が行われました。OUIK からは世界農業遺産のコンセプトや認定申請のノウハウ、そして背景にある生物多様性保全や里山里海に関する講義とディスカッションを行いました。金沢での座学の後は、Dorji 氏、石川県庁の方々とともに能登を訪れ、世界農業遺産認定を契機とした農業の6次産業化の事例、能登スマートドライプロジェクト、農家民宿を核とした生業づくりなど地域全体が一体となった取り組みを実際に見て頂きました。



知事表敬：(左から) ユ一研究員 (OUIK)、Dorji 氏、谷本県知事、永井事務局長 (OUIK)

片野鴨池にて坂網猟の見学 (2014.12.27)

ラムサール条約湿地に登録されている片野鴨池(加賀市)を訪問し、300年続く伝統的な坂網猟を見学させていただきました。11月15日から93日間、夕刻に鴨がえさ場に向かい飛び立つタイミングに合わせて坂網という網を空に向かって投げ上げ鴨を絡めとるといった伝統的な猟法が行われます。見学に先立ち、お話をしてくれた大乘寺捕鴨猟区協同組合池田豊隆理事長から、坂網猟を行っている猟師さんたちは伝統猟を受け継ぐのみならず、鴨がいない夏の間は湿地帯の草刈りを行い、鴨が飛来しやすいように生態環境を守る努力もされていること、世界的にも珍しい巴鴨(トモエガモ)の生態が研究者との協働で分かったこと、鴨たちはとても臆病で静かな環境を守ってやらなければいけないこと等、興味深いお話を沢山聞くことが出来ました。



池田理事長(右)と、お話を伺う飯田研究員

イベント告知

2015年3月24日(火)：公開セミナー「能登の里海」能登の里海を多方面から発見するセミナーです。

2015年5月28日(木)：国際シンポジウム「石川-金沢生物文化圏の提案～都市と里山里海をつなぐ『石川-金沢モデル』～(仮題)」ユネスコ創造都市ネットワーク会議開催を記念して豊かな自然に育まれてきた石川と金沢の文化を考えます。

発行：2015年1月15日

国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット (UNU-IAS OUIK)
〒920-0962 石川県金沢市広坂 2-1-1 石川県政記念しいのき迎賓館 3階

Tel:076-224-2266 Fax:076-224-2271

Email: unu-iasouik@unu.edu

http://ias.unu.edu

Facebook ページ開設！ <https://www.facebook.com/OUIK.UNU.IAS>